

「Atlas of Gastroenteology」

edited by Tadataka Yamada, M.D.

慶應義塾大学医学部内科・教授 土 屋 雅 春

同・講師 三 浦 総一郎

「百聞は一見にしかず」という諺は欧米にも存在するようで、“picture is worth a thousand words”という趣きの本書が刊行された。ミシガン大学の俊才 Tadataka Yamada 教授が editor となり 4 年の歳月をかけて作られた本書は、その名のとおり消化器疾患の病態に関し図表のみでの解説が試みられているユニークな書である。

昨年、1991 年に同じく Yamada 教授が中心となり「Textbook of Gastroenterology」が刊行されているが、これはその姉妹書として位置づけられており、Textbook の同項目を担当した同一筆者が、イラストを用い解説する形式をとっている。もちろん本書はこれ単独で内容のある楽しい読み物として完成しているが、reference が無い欠点があり、Textbook と併用して初めて教科書の価値が高まると思われる。

イラストの医学書というと、われわれがすぐ思い浮かべるのは、天才科学画家 Netter のイラストレーションである。残念ながら本書に Netter の華麗さを期待してはならない。むしろ意識的に図表は地味に抑え、実際の症例の写真や組織像を豊富に使って解説しようとする姿勢がうかがえる。したがって、カラー写真や組織写真のクオリティーは十分満足のゆくものがある。

本書は Textbook 同様、Yamada 教授の恩師であった UCLA の Grossmann 教授の墓前に捧げられており、偉大な教育者であった故人の遺志を継ぎ、全世界に散らばった精鋭の弟子を筆者の中心として斬新な内容に満ちている。しかし細かい内容を見ると、項目によっては写真がポリシーもなくただ羅列されているような物足りない部分もある。また、蛋白漏出性胃腸症の項目がな

い、Crohn 病と潰瘍性大腸炎が一括されている、微小循環障害に関する解説や腹腔鏡を用いた手術の記載がない、など不満な点もある。一方、AIDS や免疫異常症の消化管病変などの項目をうまく網羅しており、消化器疾患における皮膚病変など非常に興味深い項目も入っており、限られた 700 ページの中で印象的に情報が絞りこまれている点は感心させられる。

肩を張らずに気楽に読め、教育にも便利な図表が満載されている本書は、臨床家や学生のみならず、われわれのような忙しい教職者にとっても絶好の贈り物といえるのではないかと感じた。

●Published by J.B. Lippincott Co., Philadelphia, 736 pp. 1440 illus. 600 in full color, 21 tables, 1992 定価 ¥49,000 (税別) 〒300

医学書院洋書部 (☎03-3817-5670~1)